

- ◆法人の理念◆ 「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」
～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します。～

- ◆運営方針◆
職員行動指針；
①当事者中心 ②自己決定 ③権利擁護
④啓発 ⑤協議 ⑥創造 ⑦研鑽 ⑧Win-Win



プシケおおたに期待する

プシケおおた賛助会代表 高橋明紀代

私がプシケおおた賛助会（以下 賛助会）にかかわるようになり、すでに5年以上が経過しました。賛助会は当初、社会福祉法人プシケおおた（以下 プシケおおた）の財政状態の見通しが厳しいので、当事者の家族や支援関係者、スタッフなどで賛助会を作って会費を集めて支援するとともに、プシケおおたの啓蒙活動に取り組みうということでした。

この間、賛助会初代代表の道家忠男さんの優れたリーダーシップのもと、賛助会員は100名を超え毎年30万円から40万円をプシケおおたに寄付することができました。この間、プシケおおたの努力もあって危機的な財政状況は改善され、財政支援という賛助会の目的は達成できたので、賛助会は解散してもよいのではないかという意見も出ました。

しかし、プシケ職員から、賛助会の存在が職員を励ましてくれていることや財政も安定している訳ではないのだと言われ、地域の精神分野の啓蒙活動や支援グループの連携など、これからも多くの取り組む活動があるということで、賛助会の活動を継続することになりました。

私は、別居の妹(73歳)が統合失調症のため、大田区で長年、医療や福祉の支援を受けてきました。近年は介護支援も受ける生活に入っています。そこで、遭遇していることは、いま在宅で辛うじて自立の生活を送っている妹が、今後年齢を重ね、同時に私の加齢もあり、支援レベルを上げていかざるを得ないだろうということです。

いま、まだ医療と介護は縦割りで、それぞれ支援を頂いていますが、医療や介護そして支援者や家族がもっと連携することで、高齢化する当事者の支援がレベルアップし進むのではないかと感じています。

最近日本の精神分野で、「イタリアのMattoの事例」やフィンランドの「オープンダイアログ」、そして英国のメリデン版訪問型家族支援などが紹介されるようになりました。こうした流れは、世界的な潮流といえるかもしれません。その結果、日本においても、当事者への支援のあり方が、少しずつですが、変わりつつあるようです。

医療は病院、介護は福祉という縦割りでなく、当事者が地域で暮らす環境において、病院から訪問看護師が当事者の生活の場に出向いてケアしたり、訪問看護師と支援グループのケースワーカーと一緒に当事者のもとを訪れて、連携しながらケアとサポートをする事例も出てきました。つまり、専門分化した組織の専門家がそれぞれ、当事者をサポートするやり方から、当事者の生活全体をみながらサポートすること。さらに、各分野の専門家が連携して当事者をサポートしていく方向が注目されつつあるということでしょう。

そこで、プシケおおたにおいても、大田区で組織の枠を超えた連携の中核を担って行って欲しい。それには、プシケおおたのスタッフが問題意識をもって、地域の病院の看護師や社会福祉協議会、あるいは同じ支援に取り組むNPOのスタッフや家族会などと情報交換や勉強会などを重ねることで、これから支援の方向や新たな課題が明確になり、取り組みへの行動が生まれてくると期待しています。



センター祭りのご報告



こうじや生活支援センター

こうじや生活支援センターでは8月20日(日)に「福祉のまち糶谷 第5回夏のおまつり」と協同してセンター祭りを開催しました。当日は、大田区長さんを始め、糶谷地区の町会長の皆様、多くの来賓の方々にお越しいただきました。来場者数は過去最高で、利用者さん36名、地域の方172名、計208名の方にご参加いただきました。また、P.プロジェクトの皆様、クッキングワーク街の駅の皆様、スワンベーカーリーの皆様、南晴病院の皆様、家族会の皆様、ボランティアの皆様等のご協力を得て、盛況のうちに終了することができました。誠にありがとうございました。メンバーさんからも感想をいただきましたので御紹介します。



集合写真

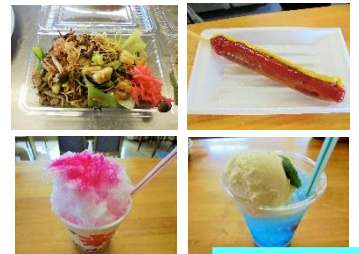
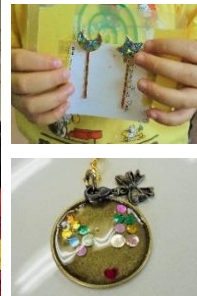


座談会の様子

皆様、センター祭りお疲れ様でした。当日2F厨房にて塩焼ソバを焼いていた今立です。自分なりに美味しく焼いたつもりですが、皆様の舌には、どの様に感じられましたでしょうか？当日2日前から買い出し、1日前には仕込みをして当日に臨みました。お陰様で完売できたのがとっても嬉しかったです。又、来年も時間が合えば参加したいと思います。
今立 正幸



アクセサリ作り体験



模擬店

かきごおりとフロートがおいしかったよ！
おもしろかった。
M.S



盆踊り



打ち上げお茶会



かまた生活支援センター



芋煮会・甘酒会をしました

かまた生活支援センターでは、10月28日（土）に地域交流事業としてセンター隣りの太平橋児童公園で芋煮会・甘酒会を開催しました。

雨の中、メンバーさん、地域の方々合わせて87名の参加者をお迎えし、楽しく美味しく温かい時間を過ごすことができました。

そして、大田区内のコミュニティ紙、城南タイムスの取材もありました。

ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。

芋煮に使った里芋はプログラムの『ふれあいファーム』で作りました！



西蒲田四丁目町会の方にも来ていただきました。



大雨での収穫は大変でしたが、こんなにたくさんの里芋ができていました♪



芋煮と甘酒の材料は大田区社会福祉協議会より補助金をいただき、開催することができました。





クッキングワーク街の駅 おおた福祉フェスに出店

平成 29 年 9 月 9 日 (土) に産業プラザ PI0 にて介護・福祉の就職説明会、講演会、大田区商店街キャラクターイベント等の「おおた福祉フェス」が開催され、出店しました。今回は新作の紅茶パウンドケーキも販売し、最初は売れるかどうかドキドキしていましたが、無事に完売したので良かったです。パウンドケーキ作りを頑張ったメンバーさん達にも嬉しい報告ができました。販売に参加したメンバーさんから感想をいただいています。

- ・隣がコーヒー販売だったので、パウンドケーキと並ぶとコーヒーショップのようなブースになっていたような気がしました。午後になってみんなに買っていただき、完売につながったと思います。
- ・最初は隣のコーヒーと一緒に一切れのパウンドケーキを買ってくれていたお客さんが多かったです。その後からはハーフサイズを買ってくれて、売上げが伸びて良かったです。

大人気！てづくり
パウンドケーキ



大田区ゆるキャラ
うめちゃんたち



csiにしかまた

2017年9月3日フリーマーケット報告

お天気に恵まれ、大いににぎわいました。家族会から3人、メンバーも3人、プシケからは職員1人が参加しました。

暑さのせい、かき氷は大繁盛、ポップコーンも健闘して、飲食の売り上げは13,200円 衣類・雑貨が15,500円と合わせて3万円近い売り上げを記録しました。お店を担当してくださった皆さんお疲れさまでした。売り上げに貢献いただいたお客様ありがとうございました。

フリマの区画づくりは、猛暑を警戒してか今回は5月（68区画）と比べて激減で37区画でした。少なすぎるのでどうかなと心配しましたが、賑わい的には問題なくこれまで同様の盛況ぶりでした。



新入職員の紹介

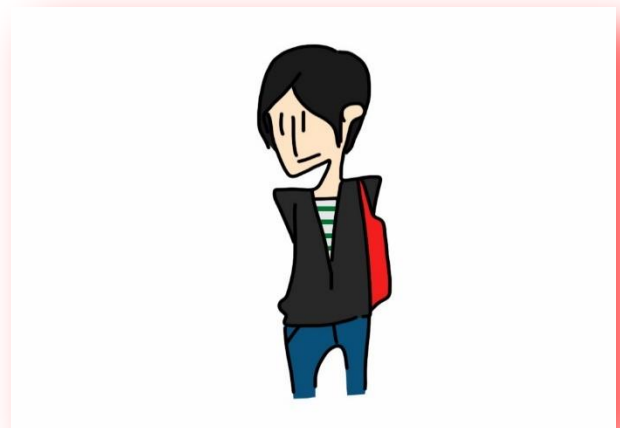
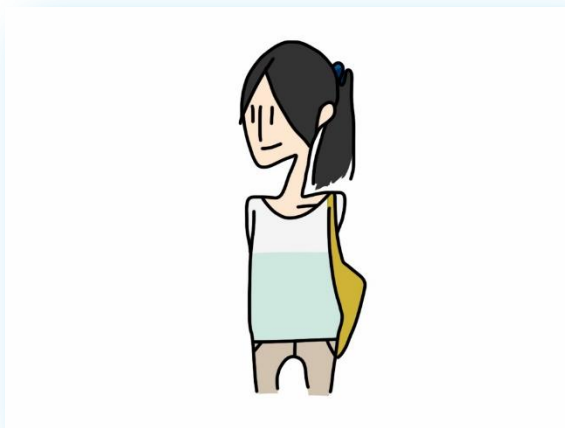


村上 瑞穂 (むらかみ みづほ)

7月1日からホーム蒲田とさくら草に勤務しております、村上瑞穂と申します。これまで一般企業で働いてきた中で、次第に人に直接関わる仕事をしたいと思うようになり、一念発起し、精神保健福祉士通信課程を受講する決意をしました。この3月にどうにか精神保健福祉士の資格を取得し、初めて福祉の現場で働くことになり、まだ右も左も分かりませんが、色々な方々と接し、お話しする機会を持ちながら多くのことを感じたり考えたりする毎日を過ごしています。多様なご経験をお持ちの皆様にご指導いただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

投稿コーナー

<<パソコンで描いたイラストをいただきました>>



M.C より

精神保健福祉の理解を深める会 あけぼの会

私たちは大田区にあるボランティア団体です。精神障がい者の理解を深める活動と当事者、家族へのイベントを企画しています。当事者の作品展、鎌倉ハイキング、平和島キャンプ場での芋煮会などを毎年開催しています。お気軽にご参加ください。

また、会員や世話人の募集もしています。世話人会は毎月第三木曜日の夜に行っていますので、関心のある方は一緒に活動しませんか。

この団体は会員の会費で運営しています。

私たちの活動が、当事者とその家族のお役に立てればと願っています。

あけぼの会事務局（P. プロゼクト気付） 03-5493-2533



フシケおおた事業報告会のお知らせ

フシケおおたでは、これまでの、そしてこれからの活動を知っていただくために事業報告会を行います。

これまでの感謝をお伝えするとともに、これからのフシケおおたについて語る場にできたらと思っています。

皆さまのご参加をお待ちしています。

❖日時：11月29日（水）13時00分～15時00分（受付開始12時00分）

❖会場：消費者生活センター 大集会室

大田区蒲田5-13-26-101（JR蒲田駅東口から徒歩5分）

❖内容：各事業所からの発表、座談会、他

❖お問い合わせ：事務局長 山岡

プシケおおた役員紹介

平成 28 年 3 月 31 日に成立した社会福祉法等の一部を改正する法律により、定款等の改定、法人の役員の改選を行ってまいりました。

平成 29 年度からの役員の皆様をご紹介します。

理事・監事 任期：平成 29 年定時評議員会 ～ 平成 31 年定時評議員会まで

理事長	石井一平	理事	山岡道夫
理事	小山廣子	理事	市原喜代司
理事	奥野求理	理事	松本幸則
理事	岡本洋	理事	安元祐一郎
理事	平野康雄		
監事	寺島滋	監事	齋藤佳代子

評議員 任期：平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 33 年定時評議員会まで

評議員	美谷島邦子	評議員	川崎洋子
評議員	今村まゆら	評議員	入野野祐子
評議員	高橋明紀代	評議員	服部恵子
評議員	野口修	評議員	廣瀬達志
評議員	六車泰子	評議員	金高加代子

評議員会は今までの評議員 20 名から 10 名へ変わり、重要事項の議決機関としての機能も加わるようになり大きな変化がありました。また、新理事に安元さん、新評議員には金高さんに就任して頂き、新体制で法人を運営してまいります。今後ともよろしく願いいたします。

今まで評議員を務めて下さいました皆様、長く法人の理事を務めて下さいました西川さん、ありがとうございました。



西川公久さんを悼む・・・

「プシケおおた」の生みの親である西川さんが今年 8 月 29 日に逝去されました。

昭和 58 年当時は、精神の病を発症すると即入院となり、その後は入退院を繰り返すという本人にとっても家族にとっても先の見えない辛く絶望的な状況でした。西川さんは、保健所の総務課長という事務系の管理職でした。現場で働く保健師やケースワーカーの奮闘を見、精神障がい者の置かれた状況を知るにつけ、障がいを持って地域で暮らせるよう支援をすることが大事だといち早く気づきました。そのためのボランティア団体「あけぼの会」立ち上げに尽力し、初代の代表者になりました。「大田区にポストの数ほど作業所を作ろう」ととんでもないスローガンを言ったのも西川さんです。西川さんに「何故そこまで力を入れて下さるのか？」と聞いたところ「職場で一生懸命頑張っている保健師やワーカーを応援したかった」・・・と、考え深い返事を頂きました。

社会福祉法人プシケおおたの立上げの中心となり、その後も理事や賛助会役員として厳しい指摘を頂いたりしました。

創立に携わった仲間がだんだんと少なくなり、寂しい事ですが、大田区内を見てもプシケおおたの中でも、次世代へと確実に地域生活支援の思いは引き継がれている事を感じています。西川さん、本当に有難うございました。

プシケおおた理事 小山廣子



「日本の Matto の町をどうする」 集会報告

～今も続く人権無視の隔離拘束、解消されない長期入院～

10月9日、ニッショーホールで大熊一夫氏が中心となって呼びかけた研究集会「日本の Matto の町をどうする」が開催されました。賛助会の地域での啓発活動の参考になるかと役員会で参加を確認したもので、その報告です。

ドキュメンタリー映画「精神病院のない社会」が午前中に上映され、午後からは「強制入院の不条理」というテーマでのシンポジウムでした。

映画は2015年3月の措置入院の女性のインタビューから始まり、今も続く人権無視の隔離拘束の実態やトリエステのルポ等が上映されました。

シンポジウムは精神病院での隔離拘束の実態について話されました。2017年7月ニュージーランド青年の大和病院における身体拘束死の報告、2014年4月石郷岡病院患者暴行死事件の報告などから、1970年に大熊一夫が「ルポ精神病棟」でうったえた実態と47年たった今もまったく変わっていない精神病院の問題が浮き彫りにされました。原発事故の避難をきっかけに長期入院から解放された方の報告、会場からのゲスト発言として長期入院で人生を奪われ、「やどかりの里」で自分の生活を取り戻した方の報告がありました。会場からの「ひとこと発言」では山本真理さんから人権無視の隔離拘束の実態あれば個人でも国連の「恣意的拘禁作業部会」に対しては通報できずと情報提供がありました。精神科医からは指定医の診察に関連した問題点についての発言、家族からは同じ病院でも医師により見立、薬の処方が違う実態、精神科医療での抗うつ剤の処方、量の妥当性についての疑問が意見として出されました。最後に大熊氏からは、現場からの「内部告発」を呼びかけ、メディアも動かし社会の意識を変えていこうと話されました。

多くの入院患者を多摩地区や近県の病院でお世話になっている大田区の関係者としては、見過ごすことのできない問題として考えさせられました。地域からの精神保健福祉の取り組みで私たちが何をすべきか、何が出来るかを、考えていかねばと強く感じた集会でした。



平成29年度、7月から10月までに会費を納入して頂いた方（敬称略）

個人会員： 68名

団体会員： 3団体

多くの方々からご賛同頂きまして、心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

賛助会代表 高橋明紀代